

論文要旨

【目的】多職種チームの介入によるせん妄患者への対応に関する国内の先行研究を調査し、多職種チームの特徴、介入の内容、介入に関わった職種と役割、多職種チームが介入することの効果、今後の課題についての記述から、医療の質を高めるための効果的なチーム医療の展開と、その中でのリエゾン精神看護専門看護師の活用可能性について考察する。

【方法】医学中央雑誌 Web 版を用いて「せん妄」、「患者ケアチーム」で検索し、ブラウジングとハンドサーチを行った。せん妄への多職種チームでの介入について述べられている 12 件を選択し、多職種チームの特徴や介入内容、多職種チームの介入の効果、今後の課題について整理した。

【結果】せん妄に介入する多職種チームは①プライマリーケア型、②せん妄回診型、③緩和ケアチーム型の 3 種類に分類した。多職種チームによるせん妄への介入は 4 種類抽出され、「せん妄の予防に関する介入」では、術後疼痛管理、早期離床、せん妄のスクリーニング、患者の使用薬剤のせん妄誘発薬のチェック、という介入であり、「せん妄発症時に使用する薬剤処方に関する介入」では、せん妄発症の直接原因となる薬剤を避けて処方をする、処方に関するアドバイス、という介入であり、「せん妄発症時の対応に関する介入」では、精神科医が治療の対応をする、精神科医が治療に関する助言をする、精神状態を評価する、精神科医が定期的に面接をする、生活リズムを調整する、という介入であり、「せん妄の教育に関する介入」では、せん妄に関する学習会を行っていた。せん妄に対する多職種チームの介入の効果は 4 種類抽出され、「患者・家族に対する効果」では、せん妄症状が改善した、全身状態が改善し退院に結びついた、術後合併症の発生がコントロールされた、ということが明らかとなった。「病棟スタッフに対する効果」では、多職種チームの持っている知識や技術を病棟スタッフへ提供することがスタッフを教育し、不安を軽減し、意欲向上へつなぎエンパワメントしていることが示された。「病院組織に対する効果」では、在院日数の短縮につながっていることが示された。せん妄に関する多職種チームの今後の課題では、「システム構築に関する課題」であり、多職種チームの目標や役割の共有、チーム内や院外の機関との連携や情報共有、「活動の周知と浸透に関する課題」ではチームの活動が病院全体に知られていない、「病棟との情報共有に関する課題」ではチームの介入内容を病棟スタッフにフィードバックを返す、多職種チームと病棟で問題点を共有することが挙げられた。「学習・教育に関する課題」では精神症状に関する情報提供や認識不足があることなどが挙げられた。

【考察】多職種チームにおいて、各メンバーの役割やチームと病棟がどの程度協働するかは様々である。チーム内で役割を明確にし、チームとしての目標を共有することで、複雑で多要因性に発症するせん妄に対しきめ細かく対応できると考えられる。リエゾン精神看護専門看護師は精神状態を観察、評価し、患者を包括的にアセスメントする機能をもっている。また、チーム機能を促進させる役割としても活用が期待できる。